

2021年度 第2回 理事懇談会 抄録

日 時：2021年7月4日（日） 9：30～12：30

場 所：WEB会議

出席者： 理 事：齊藤、内山、大工谷、吉井、湯元、清宮、佐々木、白石、森本、網本、
板倉、大淵、小川、梶村、黒澤、高橋（哲）、高橋（仁）、田中、谷口、
西山、友清、藤澤、松井

監 事：太田、櫻田、辺土名

欠席者： 理 事：なし

監 事：なし

I. 協議事項

(全2題)

1. 会員負担の軽減について

(齊藤会長)

昨年度の理事会において、会員の恒久的な負担減について議論することとしており、原資を明示するとともに負担原案について提示され、協議がなされた。

【主な意見】

- ・会費減とし、学会の基礎的なお金として徴収してよいという案には賛成。お金が足りないことが問題とされているが、システム改修による経費削減が盛り込めれば早期に実現できるのではないかと。
- ・協会として、資金的に何を優先するのか方向性をまず決めるべきではないかと。削減する場所・投資する場所を決めなければいけない。今後、市町村単位で取り組みを進める必要が出たとき、士会活動に参加する会員が少ないのも大きな課題であり、士会長から予算を含めて援助してほしいという意見も出ている。目先のお金だけで議論をしない方がよい。
- ・登録理学療法士にかかる費用を無料にする案には賛成である。会員になる大きなメリットとして、生涯学習の担保という点もあるかと思う。学会法人化の意義は研究を進めること。専門会員を中心に進めていくことになっていて、一般会員からの参加費徴収を原資にする点についてはそう簡単に進められる議論ではない。
- ・新制度を運用していくうえで、若い人たちの人材育成が10年は続くと思うので、その世代の会員となる会員が入会してよかったと思える体制づくりをすることが重要であり、その点を表に出していくことが必要であろう。士会への支援も検討した方がよいのではないかと。
- ・まず、事業の方向性と照らし合わせ今までの予算枠でよいか検討する必要があるのではないかと。会員の推計と収入・支出のバランスについてシミュレーションが必要。資金力は重要なポイントであって、それ相応の事業を打つとなると資金力も求められる。組織体制を強化するための資金も相当いるだろう。一昨年に資金を出して介護予防の研究を行ったが、同様の仕組みで学会に投げかけて、国全体のデータを取って職能に活かしていくということも考えられる。今後のビジョンを含めてご検討いただきたい。
- ・単純な値下げではなく、中長期的にお金をどのように運用していくかのビジョンを持つべき。仮に余るといふのであれば、士会への還元についても検討すべきだろう。入会率が減少傾向にあり、あてにしている人数の入会が今後も見込まれるかも不透明。帰属意識を持ってもらえる魅力ある協会づくりが原則になるかと思う。

・会員動向の見通しなどを出したうえで検討しなければいけない。組織改定の動きも踏まえて考えるべきことであり、流動的な要素が多い中で会員負担の軽減を議論するのは時期尚早ではないか。

2. 日本理学療法士協会の学術誌について

(白石常務理事)

4月の理事会において、本会の学術刊行物の発刊について承認されている。学術刊行物は2022年度内の発刊を予定しており、学術誌の名称、発行方法、内容等について協議がなされた。

【主な意見】

- ・論点整理が必要。学術類似誌が複数あるのもいかがなものか。
- ・お金はかけないということを約束してほしい。理由が学会会議の要件を維持するためという点について賛成したというのがこれまでの議論だった。パブリッシュである必要があるのであれば、マイページ限定ではそうならないのではないか。
- ・学術誌の意義、本会がそれを出す意味、費用などを整理してもう一度出してほしい。

以上